



臨床医が知っておきたい 消化器病理の見かたのコツ 改訂版

福嶋敬宜，佐野直樹，山本博徳 / 編

B5 判 / 214 頁 定価 6,820 円（本体 6,200 円＋税10%）

ISBN 978-4-7581-1078-5

羊土社，2023 年 4 月 4 日発行

評者 山田 玲子

三重大学医学系研究科病態制御医学講座 消化器内科学

消化器病理は、我々消化器内科医にとって、身近だけれども奥が深いゆえにとっつきにくく感じてしまう存在ではないでしょうか。本書はそんなとっつきにくさを払拭してくれる、病理医と消化器内科医の情熱が詰まった一冊です。

消化器の各部位ごとに章立てされており、各章のはじめに「正常構造と病変の見かた」について丁寧な記載があり、病理医の本音や日々の標本作りのルーティンも垣間見ることができます。また、切除標本を見るコツに至っては、あたかも切り出しの場でリアルタイムに講義してもらっているようでした。

一方、疾患のパートでは、実際に症例に接しているような感覚で読み進めることができます。例えば消化管領域では、見開き左ページに鮮明な内視鏡像とルーペ像、そして我々が抱くような疑問も取り上げてあり、

その答えとして右ページにポイントを押さえた病理写真と解説が載っています。病理写真には豊富な注釈が施されているので、専門的な内容もすんなりと頭に入ってきます。

消化器病理に興味を持てはいるものの一歩が踏み出せないような初学者にとっての入口として最適であるだけでなく、消化器病理をより勉強したいと考える私のような中堅医師にとっても奥が深い教科書です。何より、現在の私のテーマである「どのように伝えるか」も間接的に教えてくれる一冊となりました。プレゼンテーションの場において、また若手の先生や学生さん、患者さんに、自分の伝えたいことを興味深く聞いてもらうためのヒントも詰まっていますので、これからも機会があるごとに参照していきたいと思います。